しなやかに「ストレングス」を活かす

人間健康学部長・人間健康研究科長　村　川　治　彦

狭間香代子先生は、大阪市立大学大学院生活科学研究科人間福祉学専攻において博士論文「ソーシャルワーク実践理論におけるストレングス視点の研究」で博士（学術）の学位を取得され、東大阪短期大学教授を経て2003年4月に関西大学文学部教授に着任されました。その後文学研究科の身体文化専修創設に加わり、2010年4月に人間健康学部が開設されるに伴い文学部から移籍されました。本学部では初代竹内洋学部長のもと副学部長として学部の土台づくりに務められ、2012年4月からは竹内先生の後を継いで第二代学部長（関西大学で初めての女性学部長）を務められるなど、この十年間本学部の発展に多大なる貢献をされてきました。

狭間先生の研究は、一貫してソーシャルワークの理論と実践をつなげることに向けられています。特に先生が早くから注目され博士論文にまとめられた「ストレングスアプローチ」については、日本を代表する研究者としてこの理論的枠組を社会福祉援助の実践に結びつけることに尽力されてきました。その成果は『社会福祉の援助観――ストレングス視点・社会構成主義・エンパワメント――』（筒井出版2001年）『ソーシャルワーク実践における社会資源の創出――つなぐことの論理――』（関西大学出版部2016年）にまとめられています。さらにこれらのご著書を含め、共著20冊、共訳書1冊、論文37編以上を発表されています。また、社会福祉学会でも社会福祉士国家試験の試験委員（2011年～2016年）を務められるなど後進の育成に尽力されました。

その他地域の福祉行政にも携わり、奈良県の都市計画審議会委員（2013年～現在）障害者施策推進協議会委員（2007年～現在）や、堺市の障害者施策推進協議会部会長（2013年～現在）いじめ防止等対策推進委員（2014年～現在）を歴任されるなど、地域社会の発展にも貢献されてきました。

私は2008年に新学部開設準備委員会に加わった時から先生とご一緒させて頂き、様々なご指導や励ましを頂きました。特に文学研究科の身体文化専修では、先生のもとで学ばれる社会人大学院生の指導をご一緒させていただき、しなやかで暖かい先生のお人柄に接することができました。また個人的にも、早く研究を纏めるよう折に触れ叱咤激励いただいてきました。ご期待にそえないまま今に至っていますが、ご退職されてもぜひキャンパスにおいでいただき、にっこりと微笑みながらご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。